

2025年12月22日

フィリピン航空のA350-1000初号機を引き渡し

エアバス（本社：仏トゥールーズ、最高経営責任者：ギヨム・フォーリ）は22日（トゥールーズ時間）、フィリピン航空のA350-1000初号機を引き渡したことを発表しました。これにより、フィリピン航空は同機を運航する世界で10番目の航空会社となります。

フィリピン航空のA350-1000は3クラス制の客室に382席を装備します。太平洋を横断する同社の長距離路線サービスにおいて、新たな章を切り開くでしょう。高い効率性を備えるA350-1000によって、フィリピン航空は北米の主要都市への直行便サービスを展開し、太平洋横断路線を拡充することができます。

今回納入されたのは、フィリピン航空が機材拡大計画の一環として発注した9機のA350-1000のうち、第1号機です。すでに運航されているA350-900とともに、米国路線の拡充を担います。A350-1000の導入により、フィリピン航空は長距離路線の輸送能力を増強するだけでなく、空の旅の快適性と信頼性を向上します。

A350は世界最新の効率性の高いワイドボディ機で、大陸間の空の旅に新たな基準を打ち立てました。最先端技術と最新の空力設計により比類ない効率性と快適性を提供します。新世代のロールス・ロイスエンジンを搭載、軽量の最新素材を使用し、旧世代機と比較して燃費、運航コスト、CO₂排出量を25%削減しています。快適で広々としたエアバスの革新的客室「Airspace」を備え、幅広い座席、高い天井、ムードライティングにより乗り心地の良い機内空間を創り出しています。

すべてのエアバス機と同様に、A350は持続可能な航空燃料（SAF）を最大50%使用して飛行することができます。エアバスは2030年までに全エアバスファミリー機でSAFを100%使用した運航の実現を目指しています。

11月末時点でA350ファミリーは世界中の66社の顧客から1,500機近い受注を獲得しています。

Newsroom

リリースに関するお問い合わせ先：エアバス・ジャパン株式会社

藤宗宇多子
03-5775-0133
utako.fujiiso@airbus.com

野坂孝博
03-5775-0129
takahiro.nosaka@airbus.com

Follow us



If you wish to update your preferences to Airbus Communications, media@airbus.com
If you no longer wish to receive communications from Airbus, media@airbus.com